

平成30年度 業務棚卸評価シート

No.	1	担当部課名称	市立病院 医事課
事務事業名	他医療機関との連携に係る事務		
見直しのタイトル	病診連携の強化		
添付資料 有無	無		

1 現状における課題

- ・自治体病院の多くが赤字となっており、当院についても、赤字を計上している状況にあり、収益の確保など経営改善は喫緊の課題である。
- ・地域医療支援病院の指定要件である「紹介率65%以上」かつ「逆紹介率40%以上」は満たしているものの、地域の基幹病院・急性期病院としてさらなる地域医療機関との連携が必要となる。
- ・市立病院のような急性期を担う病院は、紹介患者を中心に診ることが求められ、平成30年の診療報酬改定により、5,000円以上の選定療養費を徴収することが義務づけられたため、地域の医療機関との連携を推進し、紹介患者を増やす必要がある。
- ・急性期病院であり、地域医療支援病院である当院の機能を十分に発揮し、かつ、収益を上げるためには、地域の診療所からの紹介患者を増やす必要がある。

2 業務改善の趣旨及び具体的内容

【趣旨】

市立病院の診療体制や診療の特徴・内容を理解していただくための活動を充実することにより、市立病院へ紹介していただく患者さんの増加を図る。

【具体的内容】

- ・現在の紹介・逆紹介状況実績の把握を行う。
- ・各医療機関を訪問し、紹介実績の多い医療機関はさらなる連携強化を、紹介実績がない、もしくは、少ない医療機関は実績づくりの依頼を行う。
- ・「市立病院だより」、「地域医療連携室だより」、「診療のご案内」などを作成し、配布する。

3 改善により期待できる効果

- ・紹介・逆紹介を積極的に進めることで、双方にメリットのある関係づくりを構築する。
- ・地域医療機関からの紹介新規患者を受け入れることにより収益改善につなげる。

4 実施スケジュール（概要）

（地域連携）

- ・ 6月～7月 現状の把握
- ・ 8月～3月 地域医療機関へ訪問

（情報発信）

- ・ 7月 「診療のご案内」の発行
- ・ 概ね隔月 「市立病院だより」の発行
- ・ 4月、9月、1月 「地域医療連携室だより」の発行

5 実施結果の振り返り

地域医療支援病院の指定要件である「紹介率65%以上」は80.9%、そして「逆紹介率40%以上」は70.2%となり、基準値を大幅に超えたものの、平成30年7月から選定療養費が5,400円へと変更となった影響で、初診患者数が前年比2,157人減少した。

紹介患者を増やす取り組みとして、「診療のご案内」を全登録医を訪問して配布したほか、医師同行で34件の地域医療機関へ訪問（前年比13件増加）を行い、地域医療機関との顔の見える関係づくりなどを進めた結果、紹介患者数は14,906件（前年比852件増加）となった。一方で、逆紹介患者数においても12,937件（前年比955件増加）となり、今後も紹介・逆紹介を積極的に進めながら、地域の基幹病院・急性期病院としての役割を果たしていきたい。